

シンガポールに定住した日本人第一号は音吉です。155年の長い歴史があります。

シンガポールのチャンギ地区には日本人学校では世界最大規模のチャンギ小学校があります。そこで、シンガポール日本人会の主催するサマーフェスティバルが毎年開かれています。今年は8月19日(土)でした。音吉顕彰会はこのお祭りに出店をし、地元との交流プログラムを組み込んでいました。出店は全部で68ブースもあり、食べ物、飲み物、様々なグッズ販売から、ゲーム、占い、漫画など、どれも日本のもののようにでした。顕彰会は美浜町の名産品「エビせんべい」と竹とんぼを販売し、女性軍の熱の入った呼び込みが上手で、アツと言う間に完売となりました。



広い校庭では櫓が組まれ、幾重にも踊りの輪が出来て、「炭坑節」から「シンガポール音頭」など日本風の曲や、今風の音楽が大太鼓と共に、大音量で演奏され、休むことなく踊っていました。それを眺めながら多くの人たちが飲食を楽しんでいました。浴衣を着ている若い人を多数見かけました。主催は日本人会ですが、参加者は、シンガポールの方々が大半です。一万人の参加者だったと、後日報告を受けました。

街には日本の高級車が走り、いくつかの高層ビルは日本の建築会社によるもの、新空港建設も日本の企業が数社受注している等、日本の進出はすごいものです。日本人墓地公園や、サマーフェスティバルを見ても、日本がかなりシンガポールの中に溶け込んでいるように見受けられます。活躍できる場を広げるために日本人会が、心の通い合う住民との対応を積み重ねてきたからこそ、と言えるでしょう。音吉顕彰会でも、まず現地の方々との友好的な関係から、新しい発見が与えられると言っています。

同時に、日本はシンガポールを侵略した過去の歴史があり、これを乗り越えて、今があるのだと心に留めなくてはなりません。チャンギ小学校に行くのならばと、シンガポールに詳しい友人は

音吉をめぐる旅行でいらっしゃるので、計画にはないと思いますが、本当のことを言えば（申し上げてはいけないような気もしますが）、チャンギにいらっしゃるのなら、チャンギ刑務所（今は記念館センターと教会になっています）のを、ご覧いただきたいくらいです。日本人としては忘れてはならない、辛い歴史的事実です。と、教えてくれました。時間がなくて行けませんでした。さらに

日本の占領下にあった時、今の Macritchie reservoir(貯水池、今は緑の多いピクニックやハイキングのコース)の近くに、昭南神社が立てられ、当時の生徒たちはお詣りを強制されたこともあり、日本軍が降伏するや、真っ先に人々が鳥居と神社を壊しに行ったと聞いています。日本軍による大量華僑虐殺もありました。

と、負の過去を正しく知ることも大事だと教えてくれました。

日本人墓地公園を訪れた時、軍人の墓も沢山ありましたから、ガイドさんに、かつての敵に、このような一等地に広大な墓地を持つことを許していることに感謝し、ご迷惑をかけましたと謝罪しました。彼女は「平和が一番です。未来に向かって、考えましょう」と言ってくれました。墓地公園は無宗教です。シンガポールは多民族国家で、それぞれの宗教を大切にしています。それぞれが、それぞれの信仰に生きるのは当然だと見なしています。私が「神社があってもいいのですか」と聞きますと、首を激しく振って「ノー、ノー」と言われました。ユーモアとジョークを交えてガイドしてくれた彼女は、この時ばかりは、軍司令部によって建てられた神社に対し、拒否感、嫌悪感を強く表されたのです。シンガポールでは神社は宗教とはみなされていないことを知りました。